6 月 4 日のメッセージ

聖書：使徒言行録　2：　22 – 36

「そのことの証人です」

「共に豊かに生きる」ためには「互いに受け入れ合う」ことが大切です。痛いほどわかっているはずなのに、どうして私たちの暮らすこの社会はその流れに逆らい続けるのでしょう。

「多様性」「ダイバーシティー」「インクルーシブ」etc. わかるような、わからないような言葉だけが一人歩きしているように思えます。

5 月 7 日、NHK で放送された「日曜討論」が一部で話題になっています。「いま話し合おう 子ども・若者とお金」と題された番組で注目されたのは、一人の大学院生の発言でした。彼女は担当大臣に「問題を先送りしようとするだけで、今、現在の問題に対応できていない」と切り込みました。また、「社会保障の問題になるといつも財源の話から入るのはおかしい」、「予算配分について、高齢者か若者かと二者択一を迫ること自体が『罠』だと思う」とも指摘し、分断を助長する社会の現実を浮き彫りにしました。

後日のインタビューで彼女は、「誰かが変えてくれるのを待つのではなく、一人ひとりが立ち上がらなければ社会は変わらない」と強調していました。

現実を知った者、ひと足先に喜びに与った者がまず立ち上がることが大切だと聖書も繰り返し教えています。あなたたちは何度も神の救いを目撃してきたではないか、と(「あなたたちは見た／わたしがエジプト人にしたこと／また、あなたたちを鷲の翼に乗せて／わたしのもとに連れて来たことを。」出エジプト記 19:4)。

また、イエスも言われています。

「あなたがたの見ているものを見る目は幸いだ。言っておくが、多くの預言者や王たちは、あなたがたが見ているものを見たかったが、見ることができず、あなたがたが聞いているものを聞きたかったが、聞けなかったのである。」(ルカによる福音書 10:23-24)

弟子たちが見ているものとは何でしょうか。それは、他ならぬイエスご自身です。

神の救いを体現し、分断されているものを一つに結び合わされる方です。私たちの先頭に立って導き、背後から支え、押し出してくださる方です。自分のことばかりしか考えることのできない人間のためにその身を献げてくださる方でもあります(「そのあなたが御心に留めてくださるとは／人間は何ものなのでしょう。人の子は何ものなのでしょう／あなたが顧みてくださるとは。」詩編 8:5)。また、一人では立ち上がることの難しかった弟子たちに寄り添い、聖霊によって力を与えてくださる方でもありました(「すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しだした。」使徒言行録 2:4)。

イエスと出会い、イエスの業を目撃し、イエスの語る言葉を聞いた弟子たちは、その喜びを独占することなく、力強く語り始めます。あの、何度もイエスの前から逃げ出したペトロをして、群衆の前に立たせ、語らせるのです(「すると、ペトロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始めた。『ユダヤの方々、またエルサレムに住むすべての人たち、知っていただきたいことがあります。わたしの言葉に耳を傾けてください。』」使徒言行録 2:14)。

「それで、イエスは神の右に上げられ、約束された聖霊を御父から受けて注いでくださいました。あなたがたは、今このことを見聞きしているのです。」(使徒言行録 2:33)

あなたたちも今、私たちと同じように主の恵みを目の当たりにしているのだ。私たちの見てきたものを今、共に見ているのだ、と。

「わたしたちは皆、そのことの証人です。」(使徒言行録 2:32)

聖霊を注がれた弟子たちばかりでなく、今、その事実を見聞きしているあなたたちもまた証人の一人だとペトロは語りかけているのです。あなたたちも一緒に立ち上がろう、と。

では、イエスと出会い、聖霊を注がれた私たちは何から始めましょう。